

2011 年度事業報告

1. 事業報告全般：

会員が所属する機関において組織や体制の見直しの機運が続いているなかで、さらに昨今の景気低迷が加わり、協会を取り巻く状況も厳しさが増している。このような状況下で、魅力ある協会とすることを大きな検討課題として、年間の諸事業を通して地道な事業を推進しているところである。

- ・一般社団法人への移行
総会での決定を受けて、移行手続きを完了した。2012年4月1日付で一般社団法人情報科学技術協会へ移行する。
- ・出版委員会の再発足
長い間活動を休止していた出版委員会が再発足し、出版活動強化への取り組みを開始した。

協会の主要事業である会誌刊行事業、出版事業、普及研修事業（講習会、シンポジウム、情報検索能力試験を含む）をはじめ、全体的に充実した事業を推進することができた。主な実績は次の通りである。

- ・会誌刊行については、前年に引き続き、会誌編集委員会の企画による特集テーマを核として、安定した定期発行を達成した。また、委員会レポートや情報検索能力試験実施など、協会活動の紹介を行った。
- ・出版事業については、「欧州特許の調べ方」を刊行した。その他数件発行を企画し、次年度発行へとつなげた。
- ・研修事業については、研修委員会を中心に、西日本委員会およびパテントドキュメンテーション委員会との連携により企画・推進を行い、会員の注目するセミナー、見学会を実施した。
- ・パテントドキュメンテーション委員会では、昨年度好評を得た各国の特許調査方法に関する5回連続セミナーに引き続き、特許マップの利用と考え方に関する5回の連続セミナーを実施した。
- ・情報検索能力試験については、今年度も通常の公開試験会場と併せて7ヶ所の個別試験会場で実施した。本試験に関する普及活動にも努めた。
- ・第8回情報プロフェッショナルシンポジウムは、多くの参加者を仰ぐことができた。特に維持会員は今回も招待とし好評であった。また、今回もプロダクト・レビューを開催し好評を得た。
- ・研究会としての OUG（4 分科会）、SIG（5 部会）については、それぞれの分科会、部会において活発な活動が行われた。
- ・受託事業として、日本図書館情報学会の「2011 年度図書館情報学検定試験」の運営に係る業務、および(独)科学技術振興機構の事業企画検討における企業論文発表調査を実施した。

2. 2011 年度役員および担当（○は 2011 年度選出）

理事（東日本地区）

- | | |
|--------|---------------------------------|
| 臼井裕一 | パテントドキュメンテーション委員会（正）、事業推進部会委員 |
| 小山内正明 | 会誌編集委員会（正） |
| ○小野寺夏生 | 会長、運営部会長、事業推進部会委員 |
| 川村 剛 | 副会長、事業推進部会長、運営部会委員 |
| ○小山憲司 | 試験実施委員会（副） |
| 真銅解子 | 副会長、運営部会委員、事業推進部会委員、表彰者選考委員会委員長 |
| 鈴木尚志 | 事業推進部会委員 |
| ○田村紀光 | 専務理事事務局長、運営部会委員、事業推進部会委員 |
| ○津山重雄 | 運営部会委員 |
| 長澤 洋 | パテントドキュメンテーション委員会（副） |
| ○原田智子 | 試験実施委員会（正）、運営部会委員、標準化委員会委員長 |
| ○林 和弘 | 研修委員会 |
| ○廣谷映子 | OUG, SIG |
| 増田 豊 | 出版委員会 |

- 松下 茂 著作権委員会、運営部会委員
 柳 一美 会誌編集委員会（副）

理事（西日本地区）

- 稲葉洋子 西日本委員会
 ○田中邦英 西日本委員会
 中江貴彦 西日本委員会
 増田知子 西日本委員会

監事

- 小河邦雄 ○殿崎正明

評議員（東日本地区）

- 佐藤京子 清水美都子 ○高久雅生 棚橋佳子 時実象一 徳野 肇 西内 史
 松谷貴己 ○望月聖子 ○百瀬研一 ○山崎久道 ○吉井隆明

評議員（西日本地区）

- 岡 紀子 ○落合圭 ○河塚幸子 ○北山阿梨 柴田昌樹 高橋和子
 ○田窪直規 ○玉置さやか 山田瑞穂

3. 会員異動

種別	2010年度末	入会	退会	増減	2011年度末
維持会員	59	3	6	-3	56
特別会員	114		9	-9	105
普通会員	1,204	62	130	-68	1,136
学生会員	28	3	9	-6	22
合計	1,405	68	154	-86	1,319

4. 会議開催状況

(1) 通常総会 -----1回

第54回通常総会および協会賞表彰式 2011年5月27日（金）

議題：

- ① 2010年度事業報告および決算報告
 ② 2011年度事業計画案および予算案
 ③ 2011年度～2012年度役員選挙
 ④ 新公益法人制度移行に伴う一般社団法人への移行について
 ⑤ 第36回情報科学技術協会賞表彰

(2) 理事会 -----4回

(3) 評議員会 -----1回（2012年3月12日（月））

(4) 委員会

- | | |
|-----------------|------------------------|
| 運営部会 -----4回 | シンポジウム実行委員会 ---9回 |
| 表彰者選考委員会 --1回 | 試験実施委員会 -----10回 |
| 事業推進部会 ----5回 | 著作権委員会 -----1回 |
| 会誌編集委員会 ----12回 | 研修委員会 -----4回 |
| 西日本委員会 -----6回 | パテントドキュメンテーション委員会---8回 |
| 出版委員会-----2回 | 標準化委員会-----1回 |
| 複写権問題対策委員会-1回 | |

5. 刊行事業

5.1 会誌刊行事業

2011年度は、東日本大震災の影響を受け、4月号の発行が若干の遅延となったが、そのほかの号については安定した発刊（当月1日）を達成することができた。会誌は特集を中心とした編集方針を採っているが、情報担当者の世界で話題になっているトピックを幅広く取り上げることができた。特集内容は若干図書館分野に偏りがちな傾向はあるが、編集委員会内でもこの点は留意し、他誌では扱い難いトピックを取り上げるなど工夫を凝らしている。

10月号から、パテントドキュメンテーション委員会による連載「たまに使う各国特許庁 Web サイトの紹介」を開始した。同委員会からは7月号の特集にも多大な協力を得たほか、4月号の特集では研修委員会の全面的な協力を得た。このように協会の各事業委員会などとの連携による企画は、従来から定期的に掲載している情報検索能力試験報告、協会関連の研究会やセミナーの報告などとともに、協会活動の周知を図る上で有効に機能したものと考えている。

2011年4月から2012年3月の間に、投稿記事を4本、プロダクトレビューを3本掲載した。投稿記事は、特集では実現し得ないトピックの紹介や会員間の情報共有の場として重要だが、少数にとどまったことは残念である。

会誌編集委員会では、西日本委員会の協力のもと「西日本協力員」という制度を設け、2名をこれに任命している。協力員は電子メールベースで委員会に参加するとともに、年2回の企画会議に出席している。また企画会議には、研修委員会、パテントドキュメンテーション委員会からのご出席も頂いている。各事業委員会との情報共有・意見交換を進めることで、より多角的な視点による特集が実現できるものと考えている。

【特集】

2011年

4月号 インフォプロいちねんせい -プロをめざすスキルアップ-

5月号 多様化する図書館システム

6月号 図書館にできること：周辺との連携を中心に

7月号 知財へのまなざし

8月号 図書館経営

9月号 統合検索

10月号 文献複写サービスの過去・現在・未来

11月号 典拠・識別子の可能性：ウェブ・オントロジーとの関わりの中で

12月号 ラーニングコモンズと利用者サポート

2012年

1月号 インドのいま

2月号 灰色文献

3月号 第8回情報プロフェッショナルシンポジウム

【連載】たまに使う各国特許庁 Web サイトの紹介（2011年10月号から連載開始）

【コラム】Infosta Forum（継続連載中）

5.2 一般刊行事業

長い間活動を休止していた出版委員会を再発足し活動を再開した。

出版事業については、「欧州特許の調べ方」を刊行した。

その他数点2012年度新刊発行を企画検討した。

6. 普及研修事業

6.1 研修会・セミナー

2011年度に研修委員会が行ったセミナーおよび見学会は下表の通り。

情報検索能力試験対策セミナーでは、東京、大阪の両地区で情報検索応用能力試験 2 級および情報検索基礎能力試験の受験対策セミナーを実施した。

一般セミナーでは、XML の入門からシステム構築までを視野に入れたセミナーと、特許検索の入門セミナーを開催した。2011 年 3 月に予定されていたものの、東日本大震災のために延期されていた著作権処理セミナーについても、9 月に開催した。

見学会については、国立情報学研究所を取り上げ、実習付きとして実施し、好評を得た。

恒例の事業となっている新年会とのセット企画では、Facebook の基礎から応用までを取り上げ、多くの参加を得た。

研修一覧

(研修事業全体把握のため、研修委員会企画分、西日本委員会企画分、パテントドキュメンテーション委員会企画分を一覧表としてまとめた)

名 称	期 日	企画	会場	参加者数
各国審査経過情報等の入手方法	8 月 4 日	西日本	大阪	38
情報検索基礎能力試験対策セミナー	8 月 27 日	西日本、 研修	大阪	19
特許マップ利用の考え方とその事例 (5 回)	9 月～1 月	パテント	東京	延べ 150
情報検索基礎能力試験対策セミナー	9 月 3 日	西日本、 研修	東京	42
サーチャータラナー講座 21	9 月 3-4 日	西日本、 研修	大阪	19
サーチャータラナー講座 21	9 月 17-18 日	西日本、 研修	東京	51
著作権処理実践セミナー	9 月 22 日	研修	大阪	14
著作権処理実践セミナー	9 月 26 日	研修	東京	32
EXCEL から作る XML データベース構築 基礎セミナー	10 月 19 日	研修	東京	27
見学会 神戸大学附属図書館	10 月 24 日	西日本	神戸	26
特許・超入門講座	12 月 8 日	西日本	東京	8
新春セミナー はじめて使う Facebook	2012 年 1 月 20 日	研修	東京	43
見学会 国立情報学研究所	2012 年 2 月 3 日	研修	東京	30
EXCEL から作る XML データベース構築 基礎セミナー	2012 年 2 月 25 日	研修	大阪	30

6.2 シンポジウム

INFOPRO2011 は、(独) 科学技術振興機構との共催により、2011 年 10 月 27 日～28 日の 2 日間、日本科学未来館で開催した。特別講演、トーク & トークおよび一般発表など、充実した内容となった。また、今回も情報関連企業・機関の協力を得て、プロダクト・レビューを開催した。各社のプロダクト・レビューおよび展示コーナーでの商品展示を開催し、好評であった。

- ・特別講演は、川口淳一郎氏 ((独) 宇宙航空研究開発機構 教授) による『「はやぶさ」が挑んだ人類初の往復の宇宙飛行、その 7 年間の歩み』の演題で行なわれた。

- ・トーク & トークは、2 会場同時進行で開催した。

- トーク & トーク A 『あなたの会社の特許を評価する』

- トーク & トーク B 『電子書籍の浸透を阻むものは何か』

- ・一般発表 : 22 件
- ・プロダクト・レビュー
8 社によるプレゼンテーションと展示コーナーでの商品説明など
- ・特許調査相談コーナーを実施した。OUG のメンバー 4 名が相談員となり、データベースやシステム利用などの相談を受けた。

6.3 情報検索能力試験

2011 年 11 月 27 日（日）に、7 箇所の公開試験会場と 7 箇所の個別試験会場で実施した。

1 級の二次試験は、2012 年 2 月 19 日（日）に実施した。

個別実施会場は 7 箇所で行い、公開試験会場へ出かけることなく、地域の大学などで開催できるなど、好評であった。

受験者への対応としては、テキストに基づく講習会につき、東京地区および大阪地区で開催に協力し、参加者にも好評であった。また、試験拡大につき、司書課程、図書館情報学のコースを持つ大学をはじめ、ビジネス支援図書館、公共図書館への広報活動を行った。さらに、ポスター、パンフレットの作成と配布なども実施した。

受験申込者数は、1,001 名（前年 1,044 名）であった。

試験後は、「合格を祝う会」を東京地区（3 月 9 日）と大阪地区（3 月 10 日）で開催した。昨年は震災のため中止となった東京地区では、本年は 2010 年度の合格者との合同開催として案内した。

2011 年度「情報検索応用能力試験」実施結果（カッコ内は 2010 年度実績）

	受験者数	合格者数	合格率
基礎	701 名 (736 名)	588 名 (604 名)	83.9% (82.1%)
2 級	200 名 (205 名)	90 名 (93 名)	45.0% (45.4%)
1 級	14 名 (21 名)	7 名 (6 名)	50.0% (28.6%)
合計	915 名 (962 名)	685 名 (703 名)	

試験地：

- ・ 1 級一次・2 級：東京 1、東京 2、名古屋、大阪、福岡、つくば、上田
- ・ 1 級一次：東京
- ・ 基礎（公開会場）：東京 1、東京 2、名古屋、大阪、福岡、つくば、上田
- ・ 基礎（個別会場）：九州女子大、別府大、大阪工大、藤女子大、鳥取短期大学、宮城学院女子大学、昭和女子大

2003 年度より名称や内容が変更されて新しくなった試験制度であるが、9 年ほど経過した中で、社会の変化や関連する情報試験の出現などに対応するため、現状の試験制度について分析し、情報関連の他の検定試験の調査、検討を行った結果をまとめてレポートを作成した。それらの結果をもとに、制度変更の概略案を作成し、理事会、評議員会で説明を行い、意見を求めた。これらの結果を基に、2012 年度の活動計画を作成した。

7. 調査研究事業

7.1 受託調査・事業

- (1) (独)科学技術振興機構（JST）より国内外の有力企業の論文発表に関する調査を受託した。
- (2) 日本図書館情報学会の「2011 年度図書館情報学検定試験」につき、試験運営に係る業務を受託した。当協会が実施した「情報検索能力試験」の東京会場、名古屋会場、大阪会場、筑波会場で、11 月 27 日（日）に実施した。

7.2 標準化活動

(1) 標準化委員会

7月4日に委員会を開催し、JIS X 0701:2005(MOD)について検討した。

(2) ISO/TC46 国内委員会へ委員を派遣した。

7.3 著作権活動

(1) 著作権問題委員会

- ・当協会における著作権関連委員会の再編成について検討した。
- ・本年度は、協会からの著作権問題についての諮問事項はなかった。

(2) 複写権問題対策委員会

- ・著作権法改正課題などについて、委員会の開催とともに、メールその他での情報交換を続けた。
- ・著作権関連委員会の再編成について検討した。

*上記2委員会を発展的に統合し、体制および活動内容を検討し「著作権委員会」として活動を開始した。

8. その他の委員会、事業活動

8.1 広報活動

会誌での研究部会活動の紹介 (OUG, SIG) 、メールマガジンの発行など継続的に進めた。
さらには、ホームページからの入会および会誌、書籍注文につき、継続的に改善を図った。

8.2 西日本委員会

西日本委員会は12名の委員で構成しており、主に西日本地区に拠点を置く会員に向けた講習会、見学会、会員交流会などを企画立案し、情報活動の支援サービスを行った。

(1) 委員会の開催 (年6回)

普及研修事業や見学会などの企画、実施結果などについて、活発な意見交換を行った。

(2) 普及研修事業

(2)-1 講習会 5件 (全体の一覧表は4ページに記載)

① 情報検索基礎能力試験受験対策セミナー

・8月27日(土)、大阪産業創造館、講師：河塚幸子氏。19名参加

② サーチャー講座 21：情報検索応用能力試験2級受験対策セミナー

大阪会場：9月3日(土)～4日(日)、大阪産業創造館。19名参加

東京会場：9月17日(土)～18日(日)、総評会館。51名参加

講師：岡紀子氏(㈱住化技術情報センター)、池田剛透氏(多摩大学)、田中邦英氏、三村智子氏(DIC㈱)

③ 各国審査経過情報(いわゆる「生死情報」)等の入手方法/注意点

8月4日(土)、大阪産業創造館。講師：酒井美里氏(スマートワークス㈱)。38名参加

④ 著作権処理実践セミナー

9月22日(木)、大阪産業創造館。講師：松坂重徳氏(株式会社インフォレスト)14名

⑤ EXCELから作るXMLデータベース構築基礎セミナー

2012年2月25日(木)、大阪産業創造館。講師：吉井隆明氏(筑波学院大学)。30名

(2)-2 見学会 1件 神戸大学附属図書館 10月24日(月)。26名参加

(3) 会員交流活動

(3)-1 じょいんと懇話会

西日本地区の情報検索能力試験合格者有志の会「インフォ・スペシャリスト交流会」との共催で、双方の会員および非会員で情報活動に関心の高い人との交流会を実施した。

- ・2011年12月9日（金）、大阪中央公会堂
- ・話題提供者：湯浅俊彦氏（立命館大学）
- ・テーマ：日本における電子出版の進展と図書館の役割
- (3)-2 2011年度情報検索応用能力・基礎能力試験「合格を祝う会」
- ・2012年3月10日（土）、科学技術振興機構 西日本支所
- ・先輩サーチャーのお話：仲美津子氏（商社勤務）
- (3)-3 「情報活動研究会（INFOMATES）」の活動支援
- 情報活動に興味を抱く人材が相互に研鑽する研究会の活動を支援。

8.3 パテントドキュメンテーション委員会

下記の事項について実施、企画、検討を行った。

- (1) 特許調査に関する人材育成研修
 - 「特許マップ利用の考え方とその事例」シリーズセミナーの実施（計5回）
- (2) 特許調査に関する刊行物
 - ・会誌7月号「知財へのまなざし」について、会誌編集委員会と共同で企画し刊行した。
 - ・会誌10月号より連載「たまに使う各国特許庁Webサイトの紹介」を開始した。
 - ・書籍：特許調査の実務者向け書籍として「欧州特許の調べ方」を10月に発行した。
- (3) その他
 - 会誌編集委員会、研修委員会等の各委員会と連携した。

8.4 表彰者選考委員会

第36回「情報科学技術協会賞」各賞の受賞候補選考を行い、次のように推薦した。

- ・情報業務功労賞 小林良子殿、松林正己殿、吉野敬子殿
- ・教育・訓練功労賞 清水美都子殿、吉井隆明殿
- ・優秀機関賞 アウターネット(筑波地区情報交流会)殿
- ・協会事業功労賞 SIG Web サイト研究会殿
- ・名誉会員推挙 長尾 真殿
- ・永年普通会员推挙 島地章雄殿、園田桂一殿、松井幸子殿

9. 部会関連事業

9.1 日本オンライン情報検索ユーザー会（OUG）

各分科会とも年間を通して主査を中心とした活動を行なった。各分科会の活動の詳細は、以下の分科会報告を参照されたい。

- (1) 化学分科会（主査：鈴木理加氏。9回開催）

①例会開催報告

- ・4月：勉強会 CAS 命名法と IUPAC 命名法について
- ・5月：DB 説明会 SciVerse 講習会資料、活用事例（エルゼビア・ジャパン）
- ・7月：DB 説明会 日経テレコン 21 とその周辺サービス

(日経メディアマーケティング)

- ・ 9月：ベンダー訪問 (独) 科学技術振興機構
- ・ 10月：勉強会 震災以降に注目された技術
- ・ 12月：DB 説明会 ProQuest Dialog (ジー・サーチ)
- ・ 2012年1月：ベンダー訪問 (社) 化学情報協会
- ・ 2月：勉強会 情報検索応用能力試験の試験問題を解く
- ・ 3月：勉強会 情報検索応用能力試験の試験問題を解く

②情報検索応用能力試験 試験問題2級の解答例をホームページに公開した。

(2) ライフサイエンス分科会(主査：西内 史氏。11回開催。8月休会)

① 講演会：10回

- ・ 4月 JSTの人名名寄せシステムおよびJDreamII機能拡張の紹介
- ・ 5月 医中誌データベースの紹介
- ・ 7月 STN ライフサイエンス系データベースの強化 6月～7月分/EMBASE ファイルの「MEDLINE 由来のレコード」について
- ・ 9月 米国医薬品承認情報の調べ方&製薬会社のソーシャルメディア利用状況
～SLA年会の発表から～
- ・ 10月 医中誌 Web Ver. 5の今後のバージョンアップのリリース日程・内容について
- ・ 11月 PubMedの最近の動向について
- ・ 12月 Elsevier 製品紹介
- ・ 2012年1月 ProQuest Dialog 紹介
- ・ 2月 SerialsSolutions 360Link / 360Core / Summon
- ・ 3月 NBDCと四省連携のご紹介

② 検索演習 1回(6月)

- a. ワクチン接種の副作用として接種部位周辺の大きな範囲が腫れ、腫れた部位が徐々に下がってきている(移動してきている)という症例が確認された。ワクチン接種の副反応として腫れた部位が移動する機序について教えて欲しい(国内、海外)
- b. 緑内障配合点眼薬と併用治療における眼圧下降効果及びアドヒアランス・コンプライアンスの比較、緑内障点眼薬の配合薬と併用療法の比較(国内、海外)
- c. 胃下垂を検索した場合、日本国内のDBと海外DBでは、該当件数に大きく差があるのはなぜか(国内、海外)
- d. 過去の添付文書(医療用医薬品)の入手方法

③ 会の運営についての検討会 2回

- ・ 5月 2011年度 OUG ライフサイエンス分科会の活動について
- ・ 6月 OUG ライフ分科会活動について

(3) インターネット/ビジネス分科会(主査：渡邊 晃氏。10回開催)

① 目的情報の効率的抽出法に関する研究

- ・インターネット情報源からの情報収集に役立つ各種手段(10月)
- ・情報の収集・活用のための基礎知識、調査前インタビュー(11月)
- ・調査の効率化に役立つ特殊機能を持つ検索エンジン(11月)
(分類表示機能、類似画像検索機能、音声検索機能)
- ・技術用語を使わない調査方法(1月)
(ディレクトリ検索、分類・コード検索、類似画像検索)

② 調査周辺の各種便利機能に関する研究

- ・各種発想支援ツールと適用例(5月)
- ・「マインドマップ」ツールの使いこなし(6月)
- ・「Google ドキュメント」機能の検証(7月)
- ・効率的抽出に役立つ、用語情報サイト(12月)
(シソーラスおよび類似情報源、関連語情報源)

③ 特定分野を対象とするウェブ情報の研究

- ・インターネット情報利用に関する情報発信源(4月)
(発信情報：情報リテラシー(6源)、情報利用上のルール(5)、情報の利用状況(3))
- ・ビジネス関係情報源(15)(4月)
- ・携帯情報端末(携帯電話、スマートフォン)の普及状況(9月)
- ・市場動向の最新状況：国内家電製品関係シェアの変化(2月)

④ その他の紹介・交換した情報例

- ・シーズ～ニーズ(SN)変換の適用例
- ・Windows7、Office2010の注意点、ほか
- ・各種エディタ、パソコンを速くする方法、ほか
- ・Microsoft office 互換機能パック関係情報(以上4月)
- ・パソコンお役立ち講座(5月)
- ・情報活動研究会(INFOMATES)(7月)

(4) 特許分科会 (主査：長澤 洋氏。11回開催)

- ・4月：討議：これからの OUG 特許分科会
- ・5月：講演「特許分類の見つけ方・使い方」
- ・6月：特許分析ツールと活用事例の紹介 (PAT-ReSerge、Biz Cruncher)
- ・7月：「PatentSQUARE」の説明会
- ・9月：検索批評演習
特許第 4004768 号(発明の名称：商品陳列台)の審査で用いられた検索報告書の
検索式についての検討会
- ・10月：合宿(東京都 報道事業厚生年金基金 ごうら山荘)
検索批評演習 特許第 3966330 号(発明の名称：ゴルフクラブ)の審査で用いら
れた検索報告書の検索式についての検討会
- ・11月：SDI 検索式の作成演習

- ・12月：講演「アジア・新興国特許情報の概要」
- ・2012年1月：講演「インド特許のデータベースと法制度について」
- ・2月：短時間での出席者参加型発表会 「LT(ライトニング トークス)で人脈を拡大しよう！」
- ・3月：講演「化合物検索の超入門編」

9.2 専門部会 (SIG)

特定の分野または専門技術に関心をもつ会員が自由に参加し研鑽を積む場として、以下の5グループがそれぞれ自主的に年間の活動テーマを企画し活動した。

(1) 技術ジャーナル部会 (会員企業：11社。コアパーソン：持ち回り。6回開催)

部会は、担当幹事が用意した設問に沿って各社がそれぞれの現状を発表し、それに対して質疑応答を行うという形で進めた。

- ・第1回 論文構成要素について (英語パーツの掲載、あらましまえがきの役割) 実務の現状 (査読工程)
- ・第2回 査読終了から印刷用原稿完成まで。技報・原稿への評価とフィードバック
- ・第3回 発行日に間に合わせるための工夫。図表の掲載について
- ・第4回 各社「執筆要領」の紹介
- ・第5回 技報データの活用 (冊子およびWeb)
- ・第6回 査読における注力点および執筆者とのやりとりによる最終原稿の作成

(2) パテントドクメンテーション部会 (会員：8名。コアパーソン：桐山勉氏。毎月開催)

① INFOPRO2011 に発表した。

- ・【G33】政府系公開情報のドクメンテーション—特許権存続期間延長情報データベースの構築

(9年間連続して部会活動の成果を発表、発表継続期間の記録更新中)

② 協会のホームページでパテントドクメンテーション部会の活動状況を紹介した。

③ 大阪工業大学の SNS にパテントドクメンテーション部会だけの非公開電子部会を継続開催し、毎月の部会活動に対する活性化補完の手段とした。

関西の部会員との Skype 会議も活用した。

④ 外国専門誌による勉強：

- ・World Patent Information 専門誌のトピックス記事を使い、記事紹介輪講会を行った。輪講会がメンバーの研鑽に役立っている。

- ・Fugmann 著「Subject Analysis and Indexing」を部会費で複数冊入しメンバーに配布。

⑤ 特別研修会を11月26日～27日(1泊2日)に鬼怒川温泉で開催した。

INFOPRO2011の発表の反省会と今後の部会の進め方について自由討議した。

⑥ 外部知的財産団体への協力；メンバー代表の派遣

特許検索競技大会2011の実行委員会(1名派遣、2007年より5年間派遣)

⑦ メンバー間のトピックス情報交換

IPI-ConfEX2011、米国 PIUG2011、EMW2011、EPOPIC2011、PIAC2011 in China などの関連情報。

その他、国内の色々な勉強会でメンバーが参加しているものを相互紹介など。

⑧ プロバイダーデモ勉強会の実施

- ・パテントリザルト社の **Biz Cruncher** を活用して特許評価の試行研究も試みた。
(パテントリザルト社のご理解とご厚意に感謝する。)

(3) 分類/シソーラス/Indexing 部会 (会員：16名。コアパーソン：山崎久道氏。11回開催)

① 外国語論文の紹介と討論

“Classification for information retrieval and classification for knowledge discovery: relationships between professional and naïve classifications” について紹介し、一般の人と情報専門家の分類への姿勢の違いなどにつき、討論した。

② 国内書籍のブックレビュー

『悩ましい翻訳語』『電子本をバカにするなかれ』『書物と映像の未来』『紙の本が亡びるとき?』『グーテンベルクからグーグルへ』『知はいかにして「再発明」されたか』『ネット検索革命』『ネット・バカ』『Google 問題の核心』『インターネットは民主主義の敵か』を題材とし、ネット上の情報の流通や組織化を巡って討論した。

③ その他

UDCの最近の動き、シソーラスのついての国際規格、今後の研究テーマなどについて意見交換した。

(4) Web サイト研究会 (会員：12名。コアパーソン：真銅解子氏。毎月開催)

原則として月一回の会合を開き、以下のような活動を行った。

① オープンソースによるデータベースの設計・作成の研究

引き続き個々のメンバー所有データをデータベース化する方策について研究を続けた。データの属性検討、テーブル切り分け方などの基礎を含め、Xampp 利用の適否、サーバを使用しない形の XML データベースとの比較など幅広く取り上げた。

② 各種 Web API 利用の研究

- ・アンケート作成・集計・解析用ソフト「Limesurvey」利用報告
- ・研修委員会主催「excel から作る XML データベース基礎セミナー」受講報告
- ・Code4Lib 主催「RSS フィードを利用した新着雑誌目次自動表示 API セミナー」受講報告

③ その他情報交換、問題解決等

- ・カード型 DB を使った映像 DB のサンプル
- ・サービス側のスタイル変更に対するスクリプト変更方法
- ・ブラウザの違いから起こる各種問題
- ・Facebook の活用法

<特記事項>

- ・永年の活動および研修委員会と協力して行ったセミナーの成功等が評価されて、2011年の「協会事業功労賞」を受賞した。副賞はメンバーの総意により東日本大震災への支援金として寄付した。
- ・2011年8月コアパーソン交代。

- (5) ターミノロジー部会 (会員：10名。 コアパーソン：太田泰弘氏。7回開催)
- ・第42回(5月13日) ターミノロジー関連のガイドライン (JIS原案を含む) 作成に向けての諸準備 (講師：仲本秀四郎氏)
 - ・第43回(6月5日) 情報技術用語の標準化 (講師：石崎俊氏)
 - ・第44回(7月8日) ばね用語の国際標準化 (講師：加藤功氏)
 - ・第45回(9月30日) ISO TC 37 Annual Meeting (Seoul) 出席報告 (講師：山本昭氏、長田孝治氏)
 - ・第46回(12月2日)
 - ・「用語規格の作成方法」(JIS/TS原案)の作成(提案者：仲本秀四郎氏、太田泰弘氏)
 - ・輪読 (ISO/CD 11669 翻訳サービス-翻訳プロジェクトの手続き) (提案者：山本昭氏、長田孝治氏)
 - ・第47回(2月3日) JICST用語管理システムの黎明期 (講師：笹森勝之助氏)
 - ・第48回(3月23日) 史資料のデジタル化への試行錯誤 (講師：石川徹也氏)

10. 関連団体との交流

(1) 会員として加入

- ・(財)機械振興協会 賛助会員 (継続)
- ・(独)科学技術振興機構 賛助会員 (継続)
- ・東京商工会議所 賛助会員 (継続)

(2) 他団体との共催

例年どおり情報プロフェッショナルシンポジウムを(独)科学技術振興機構との共催で実施した。(2011年10月27日～28日。日本科学未来館)

(3) 他団体より後援を受けたもの

INFOPRO2011に対し、専門図書館協議会、日本医学図書館協会、日本情報経済社会推進協会、日本図書館協会から後援を受けた。

(4) 他団体に後援、協賛したもの

- ・平成23年度専門図書館協議会全国研究集会 (専門図書館協議会)
- ・特許検索競技大会2011 ((独)工業所有権情報・研修館)
- ・TP&Dフォーラム2011 (TP&Dフォーラム実行委員会)
- ・関西地区2011年度研究会 (アートドキュメンテーション学会)
- ・情報活動研究会 など